�みんな楽しく　㋛㋞でもチャレンジ　㋬んまる笑顔の

南有馬小学校だより　№21

みなんまの子

令和８年 10 月７日（水）
南島原市立南有馬小学校
校　長　　大草　修三

あいさつ上手な　みなんまの子に

「校長先生、おはようございます。」
「おはようございます。〇〇先生。」
朝、校門で子どもたちを待っていると子どもたちが大きな声で挨拶をしてくれます。
また、スクールバスから降りた子どもたちが、駐車場や玄関であいさつをしてくれます。
秋のさわやかな一日が、さわやかなあいさつとともに始まり、私はとても幸せな気持ちになります。
校舎に入り、校内を回っていると、廊下で出会う子どもたちが「おはようございます。」とあいさつをします。校門であいさつした子も、駐車場であいさつをした子も、２回目、３回目の「おはようございます」です。「おはようございます」は、何回言っても、何回言ってもらってもいいものです。その日一日のエネルギーを、心に充填しているような気分になります。
これほどあいさつ上手なみなんまの子どもたちなのですが、地域ではなかなかあいさつができていないという声を聞きます。学校では、子どもたちの年齢や学級での様子に応じて、地域でのあいさつについて指導しているのですが、まだまだ指導が十分ではないなと反省しています。
なぜ、子どもたちは地域ではあいさつが上手にできないのでしょうか？
「はずかしい」「眠たい」「知らない人なのであいさつしにくい」「朝から元気が出ない」など、理由はいろいろあると思います。
では、理由があるからあいさつをしなくてもいいのでしょうか？答えは「いいえ」です。なぜなら、あいさつは人としての基礎・基本だからです。社会に出ると、あいさつができない人は、社会人として認められません。あいさつができないと「あいさつひとつできん。」と言われます。
この、人としての基礎・基本である「あいさつ」ができる子どもを育てるために大切なことは、一つです。それは、大人が「おはよう」と言うこと。朝、子どもが起きてきたとき、登校中の子どもに会ったとき、子どもが眠たそうにしていても、返事がなくても、子どもから「おはよう」「おはようございます」と返ってくるまで笑顔で、目を見て、さわやかに、大人があいさつをし続けることが大切だと思います。
家庭と地域と学校で、みなんまの子どもに関わるすべての大人が、寄ってたかって「おはよう」を言い続けましょう。そして、明るく、さわやかなあいさつが響き渡るみなんまを作っていきましょう。ご協力よろしくお願いします。



ありがとうございました

６日（火）、地域の宮﨑義彰さん、川口和典さんに体育館周辺の草刈りをしていただきました。
１９日に県内の各市町からお客様が来校される前にきれいにしていただき、本当に助かりました。ありがとうございました。

たくましさ見っけ❤

昨日の昼休み、運動不足解消を目的に、ちょっと運動場に出てみました。

子どもたちは元気ですね。サッカーをしたり、友達と追いかけっこをしたり、ブランコをこいで楽しんだり。それぞれの楽しみ方で、緑の芝生の上で秋の日のひと時を過ごしていました。

そんな中、一人黙々と竹馬に乗っている子が。５年生のA.Yさんです。実は、A.Yさんは、２学期に「かたつむりチャレンジ」が始まってから竹馬に挑戦し始めました。ですから、竹馬の練習を始めてまだ１か月足らず。そのA.Yさん、昨日は１０m以上、補助もなく竹馬で歩けるようになっていました。最初は竹馬に乗ることさえできなかったのが…。すごいなぁと感動しました。

A.Yさん、校長先生には最初から無理だと思ってあきらめていることがあるけど、A.Yさんの頑張りを見て、頑張ってみようと思ったよ。ありがとう、A.Yさん。

ほっとタイム

どうでもいい、私の「西洋見聞録」第３弾。今回もミュンヘン空港での出来事です。

何とかドイツへの入国を果たした私たちを待っていたのは、まるでおとぎの国のようにきらびやかなミュンヘン空港でした。日本の空港では、飛行機を降りたあと荷物を受け取る場所へ向かう途中に、トイレこそありますが、お店や飲食店はありません（たぶん）。ところが、ミュンヘン空港では、入国審査の場所からしばらく歩くと、見たこともないようなお店がたくさん立ち並んでいるではありませんか。「ほーっ、さすがミュンヘン！」と高級ブランド品のお店やおいしそうなパンを見ながら、ウキウキ気分でウインドウショッピング！外国に来たことを実感していました。

しばらくして「ん？今、私たちはどこに向かっているの？何をしなければならないの？」と平常心を取り戻した時には、すでに同じ飛行機に乗っていた人たちとはぐれてしまっていました。どこに行けば私たちのスーツケースと再会できるのか？これが最大の問題となりました。「そうだ、あのバッグのマークを目指していけばいいんじゃない？」と妻にアドバイスを受け、バッグのマークのある方向に歩いていきました。そのマークを目指して行った先にあったのは…なんと、地下鉄の駅！「しまった！」と後戻り。しかし、後戻りしたのはいいけれども、どこに行けばいいのかさっぱりわからなくなりました。「Oh！My god!」（オー、マイゴッ！）いよいよ本物の迷子。

しかし、妻は冷静沈着でした。この困難な状況に全くあてにならない私を見限り、息子に無料コミュニケーションアプリで連絡を取りました。息子曰く「その地下鉄みたいな乗り物に乗って、荷物受け取りの場所に行くんだよ。」と。なんと、ミュンヘン空港は、荷物受け取りの場所まで地下鉄で移動しなければならないほど広かったんです。言われたとおりに地下鉄の駅みたいな場所に戻り、電車に乗りました。

終点に着き、電車を降りてしばらく歩くと、やっと荷物が乗っているベルトコンベアみたいなものが見えてきました。急ぎ足で行くと、私たちのスーツケースが、寂しそうにベルトコンベアの上にポツンと残っていました。私は、スーツケースとの再会に心底ホッとしました。

それにしても、ミュンヘン空港は広い！絶対、迷子にならないほうがおかしい！